
太鼓の達人X 爆撃!波導の勇者ルカリオ

HASSE

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

太鼓の達人X 爆撃！波導の勇者ルカリオ

【Nコード】

N9282Z

【作者名】

HASSE

【あらすじ】

山手線町を舞台にどんちゃん達が馬鹿騒ぎ！？

なにもかもぶつとんでるこの物語をとくところんあれ！

和田どん「読者に対して上から目線じゃね」

読者に読んでほしいように宣伝してるだけなんだけど…

第一話 これがはじまりだ！（前書き）

記念すべき第一話です！（キャラの地味な登場は気にしない）

第一話 これがはじまりだ！

2011年（プロローグで20XX年て言っただけどやっぱやめた）
12月29日 AM9:00 山手線町

今この町はパニック状態になっている。何故なら…

ルカリオ「ふん！今日こそ恐怖のどん底に落としてやるよ！」

町の住民「うわあああああああああああ！」

ルカリオ「はっはっはっ！みるよ！糞人間共が悲鳴をあげてやがるぜ！」

町の住民「誰か医者呼んでこい！あいつの頭がイカレまくってるぞ！」

和田どん「ルカリオ！お前の頭は最初からイカレてると思ってたが、まさかここまでイカレてるとは思わなかったぞ！」

ルカリオ「なっ！くそ！調子にのりやがって！」

和田どん「なんだよ！お前のことを思って…！」

ルカリオ「ただ馬鹿にしてるだけだろ！」

今日、この町で熾烈な言い争いが繰り広げられていた

そして開始から30分経過…

ルカリオ「お前から今度こそ覚えてろよ（泣）！」

和田どん「世界征服する奴がこれくらいで傷つくなよ！」

ルカリオ「うるせえ！」そしてルカリオはその傷ついた心でアジト

に帰ったのであった

AM9:30 和田家

クラッシュ「あいつ強いくせに傷つきやすいなあ」

和田どん「ルカリオ種は打たれ弱いんだろ」

クラッシュ「ていうか殺してやる殺してやるってねーでさっさと

殺せやみたいな感じだよな」

和田かつ「悪口言いたい放題か！」和田どん「かつちゃん駄目だよ
あいつは世界征服をするつまり悪役だぜ？そういう役割を持つ奴
があんな打たれ弱かつたら小説として成り立たなくなるだろ」

和田かつ「そだな」

クラツシュ「あっさり認めるなよ！」

AM10:00 廃墟

ルカリオ「くそ！くそ！くそ！」

ルカリオは一人でくそくそ言っていた

ゾロアーク「また、口で追い返されたのか……。あいつらはなかなか
心が折れねえなあ」

ルカリオ「ゾロアーク！今度はお前も一緒に来い！」

ゾロアーク「やだよ。人間共に近づきたくねーからな」

ルカリオ「こつちだつていやでも近づいてんだよー！（泣）」

ルカリオは泣きながらゾロアークをお願いをしていた

AM10:30 和田家

和田どん「大声出しすぎて喉痛い上腹減ったなあ」

和田かつ「まだ十時だよ」

クラツシュ「喉痛いつてどんだけ大声出したんだよ？」

和田どん「あいつを追い払うために犠牲になった喉だぞ？俺がいな
かったらあの言い争いは三時間ぐらいは続いたと思うぞ」

クラツシュ「そこまで続かねーよ。」

皆でわいわい言ってる最中……

ルカリオ「くそ！あいつら！今度こそは〜」

PM1:30 和田家

和田どん「ぶあらへば〜食った食った！」

和田かつ「ぶあらへば〜って何！」

和田どん「うるせえな！なんて叫ぼうと人の勝手だろうが！うわあ
あ！」

クラッシュ「何がしたいんだよ」

和田どん「それよりさ、いいの？」

和田かつ「何がだよ」

和田どん「一話目からこんな感じていいのかって。さすがにこれは
グダグダだよ。G D G D！」

クラッシュ「没一話よりかはいいんじゃないかとオイラは思っ」

没一話は今度お見せします

和田どん「これも正直没だよ。プロローグも没だ」

和田かつ「いや、プロローグはもういいだろ」

皆がわいわいしている最中…

ルカリオ「ああ腹立つ！絶対殺してやる！」

P M 3 : 0 0 和田家

和田どん「3時のおやつだ！T r i c k o r T r e a t！」

和田テツオ「それも終わってるよ！そんな事言わなくてもお菓子
なんかあげねーよ！」

和田どん「ケチが！死ね」

和田テツオ「お前なんかいったかあ、あ、ん！」

和田どん「死ねつつたぜあ、あ、ん！」

皆がお菓子で騒いでる最中…

ルカリオ「くそ！くそ！くそ！くs（蹴 和田どん「お前はさっきからな
んなんだYOおおう！」

P M 6 : 3 0 和田家

和田どん「Take a bath」

和田テツオ「一人で入って沈め」

和田どん「ひどいな(驚)」

和田テツオ「毎日同じこと言うからだろ」

和田どん「お前の事だから『うるせえな！いいから入れ！』みたい
なこというだろうと思ってたのになあ…結構傷ついたよ」

和田テツオ「あそ」

和田どん「……………」

お風呂で言い争いしている最中…

ルカリオ「……………」

道端で倒れ込んでいる

PM7:30 和田家

花ちゃん「夕飯できたよ」

和田どん「えっ！勇者が出て来た!？」

花ちゃん「死ね」

和田どん「皆ひでえよ」

クラッシュ「全部自業自得だろ」

和田どん「なぬっ!」

花ちゃん「今日の夕飯は…」

和田どん「髪の毛ラーメン」

花ちゃん「散れ」

和田かつ「鉛筆そば」

花ちゃん「砕ける」

和田テツオ「布ハンバーグ」

花ちゃん「砕け散れ」

和田テツオ「どんとかつのミックスバージョン!？」

クラッシュ「どうでもええわ」

花ちゃん「正解は…花ちゃんスパゲティ！」

和田どん「つまんな」

ドゴッ！！

和田どん「ぶげ！」PM10:00 和田家

和田どん「寝る前と言ったら枕投げだろ！」

クラッシュ「リンゴバスーカ！」

和田かつ「滅びのバーストストリーム！」

和田テツオ「我が生涯に一片の悔い無し！」

和田どん「枕投げじゃねーし、一人勝手に死んでるし」

花ちゃん「さつさと寝ろ！」

ドゴッ！バキッ！ガスッ！

これが和田家の基本的な1日である

ルカリオ「……………(泣)」

第一話 これがはじまりだ！（後書き）

次回予告

テツオ「今年もそろそろ終わるなあ」

どん「この小説も終わるんだなあ」

終わらねーわ！（汗）

次回！第二話 今年最後の日

どん「始まって早々今年が終わるって何だよ」

一秒でも早くやりたかったんだよ

第二話 今年最後の日（前書き）

始まってからついに二話目を迎えるこの小説…

『今年最後の日』

尚、この日だけ特別にキーワードに「今年最後の日」が入っております。

第二話 今年最後の日

2011年12月31日 AM6:30 山手線町

子供がはしゃいでる

どん「おうおう！餓鬼がはしゃいでやがるぜ」

はな「あんたも遊びに行ったら？」

どん「こたつからでたくないでござる」

はな「邪魔だから外行け」

どん「最初からそういえよ。ブス」

バゴーーーーー！

はなが金属バットでどんを100km先までかつ飛ばした

どん「ばいばいきーん！」

はな「さて、私は古代兵器を超える物でも作るかな」

テツオ「そんなの作っちゃ駄目だろ！（汗）」

PM6:35 上空

ヒュユユユユユユン

上空でどんが飛んでいる

どん「花め！今度こそ仕返ししてやんぜ！ハハハハハ！ハ〜ヒフ〜
へホ〜！」

あ〇ば〇ま〇「やめるんだ！ばいきんまん！あーんパーンチー！！」
バキッ！

どん「ばいばいきーん！」

AM7:00 和田家

三十分経過

はな「……………」

一時間経過

はな「……………」

三時間経過

はな「……………」

そのまま時間が過ぎていき…

PM 2 : 30 和田家

どんがボロボロになって帰ってきた

どん「た…ただ…いま…」

はな「ちゃんと買ってきたの（怒）」

はなが静かに怒る

どん「全国の店を回って来たけど…どこも置いてなかった…」

はな「役立たず（怒）」

どん「て、てめえ…俺がボロボロになってまで行ってきたんだぞ…」

はな「歩いてから15分に爆薬剤売ってる店あるのに…」

どん「それを先に言えー！」

PM 4 : 00 和田家

どん「あーあ、せつかく今年最後の日だというのに、五時間も無駄にしちゃったよ」

テツオ「てか、よく五時間で全部の店回ってきたな」

かつ「一秒に一店舗でも間に合うかどうかじゃね」

テツオ「俺だったら半年は掛かるかな？」

かつ「それは遅過ぎると思う」

クラッシュ「ただいまー！」

クラッシュが帰ってきた

どん「おかえりークラッシュ」

クラッシュ「どんちゃん！頼みがあんだけど…」

どん「なんだよ？」

クラッシュ「ここから北海道方面に進んでいくと、リンゴ売ってる

店あるから行ってきて〜」

どん「あいよ」

三十分経過

クラッシュ「……………」

PM6:30 和田家

どん「ただいまー！」

クラッシュ「遅すぎだよ！どこ行ってたんだよー！」

どん「青森まで行って一個150円（税抜き）のリンゴを三個買った
てきた」

クラッシュ「何で青森まで行ってんだよー！ここから真っ直ぐ行って30分歩けば一個100円（税抜き）のリンゴを置いてる店があるのよー！」

どん「お前の説明が下手くそなんだよ！何が北海道方面だよ！北海道いらねえだろー！」

はな「うるさいー！ー！ー！」

どん ビリッ 「わっ!」

かつ ビリッ 「えっ!」

テツオ ビリッ 「何だ!」

クラッシュ ビリッ 「いでっ!」

ガラガラ (家が少し崩れる音)

ボゴオツ! (外の道路が壊れる音)

町の住民「ひいっ!」

さらにオゾン層にひびがはいる

どん「どんだけすげーのお前!?!?」

はな「あんたたちがうるさいからでしょ」

かつ「いや…これはやりすぎ」

はな「はっ?」

パアアアアアン (かつがバラバラになる音)

どん「かつちゃーん」

はな「とにかく、あんたたちは黙って家の修理でもしてる(腹黒)」

どん「HEY」

バゴツ!

どん「ふあい(泣)」

PM8:30 やまのて温泉

どん「あーあ!今年最後の日なのに最初から最後までパシられた
だけじゃねーか!」

かつ「おい!あまり大声出すと、地球が壊滅するぞ!」

どん「何で!?(汗)」

テツオ「今日の花ちゃん怖かったなあ…」

かつ「ああ、散々な目にあっただけだ…」

どん「おれが一番散々な目にあっただけだ」

クラッシュ「お前のは自業自得なだけだろ」

どん「二話連続で同じこと言っなよ…」
かつ「今日ルカリオ出なかったね」
どん「いや、俺の上空旅で一瞬だけ出たぞ」
かつ「お前の口からでただけだろ」

皆で楽しく温泉に入り

そしてついに…

その時が来た…

PM 11:55 和田家

どんとかつとテツオとクラッシュの四人が肩を組んでる

どん「ついに来たでお前ら！」

かつ「ああ、いよいよだな」

テツオ「ついにこの時が来るのか…」

クラッシュ「年に一度しかないしチャンスは一度だけだぞ」

どん「ああ、失敗したら気まずい一年を迎える事になるぞ」

テツオ「作者も今年最後の日で誤字脱字があつたら気まずい事になると必死だからな」

そしてついにその時を迎えた…

PM 11:59:30

どん「来た…」 ドキドキ

かつ「うん…」 ドキドキ

テツオ「絶対成功させようぜ」 ドキドキ

クラッシュ「ああ…」 ドキドキ

第二話 今年最後の日（後書き）

次回予告

どん「新年あけましておめでと〜ございませす。そして今年もよろしくお願ひします」

次回！2012年編！第三話 新しい年！

どん「たった二話で2011年編が終わるとか…」

第三話 新しい年！（前書き）

2012年編！スタート！！

今回はどん&mp.かつの仲良しおつかいと初日の出です

TDM解説の所はこれからも使われるので、よく見といた方がいいですよ

第三話 新しい年！

2012年01月01日 AM1:30 山手線町の商店街

どん「いや〜、いつもはこの時間だったら全ての店が閉まってる筈なのに今日はどこも閉まってないな」

かつ「逆に今日昼間は店閉まってたよね？」

どん「しかも見るよあれを」

かつ「ん？」

太鼓祭開催中！皆来てね〜 というポスターがある

どん「深夜にイベントとは、本当に今日は特別という感じだな」

かつ「花ちゃんが今の内に食材買ってこいってた理由が分かったぜ」

どん「確かに、明日の昼間も休みそうだしな」

AM1:45 魚屋さん

店員「よお！糞太鼓！今日は年越しセールだ！」

どん&mp:かつ「誰が糞太鼓やねん」

店員「サンマが1kg百円だ！」

どん「なぬ！」

店員「しかもマグロも1kg百円だぞ？」

かつ「ほあ〜」

店員「さらにさらに！カツオも1kg百円だー！」

どん「全部1kg百円じゃねーかー！」

店員「いや、キンメダイは150円だ」

かつ「なんで!？」

どん「花ちゃんに渡されたお小遣いはいくらだ？」

かつ「千円」

どん「じゃあマグロとししゃもくれ」

店員「なぜししゃも!？」

どん「え?」

店員「あ、いや、和田家にししゃもが嫌いな奴多かつた気がするんだが…」

どん「あ、そうだな。じゃあ500gでいいや」

店員「150円」

どん「ほれ」

店員「あいよ。まいどあり!」

どん「じゃあな」

AM2:00 山手線町の商店街

どん「もう2時を回ったか…」

かつ「あれ?何か怪しいポスターが貼ってあんど」

どん「は?どれどれ…」

TDMスタジアムついに建設完了!

どん「あれ本気だったんだな」

かつ「TDMって何?」

どん「は!?!?お前まじかよ!?!」

かつ「まじだけど?」

どん「TDMってのは、TAIKO DRUM MASTER(太鼓の達人)の略だぞ!?!お前太鼓の達人の第二主人公じゃねえのかよ!?!」

かつ「TDMっていう略しねーからな。知らなかった」

どん「で、そのTDMっていう会社がこのポスターに書いてあるスタジアムを作った訳だ」

かつ「TDMっていう会社があることも知らなかった」

どん「TDM会社は最近出来たばっかだからな」

かつ「TDMスタジアムって何のためにあんの？」

どん「それは知らねーな。なにすんだ？」

かつ「やべ！もう二時半だ！！」

どん「もう二時半か」

かつ「ギャグ小説のくせに対してギャグってないような気がするんだが…」

どん「ギャグってないってなに！？」

かつ「それよりも早く買い物しねーとやばくないか？」

どん「そうだな。何買うか」

かつ「野菜！野菜がもうなかったはずだ！」

どん「じゃああそこに行くか…」

二人はそのまま買い物続け…

AM4:00 山手線町の商店街

どん「店が閉まってきたな」

かつ「そうだ！初日の出に行かねーか！？」

どん「いいね！たまには二人でのんびりするか」

かつ「さっきからずっとのんびりしてなかった（汗）」

どん「よし！初日の出が見える場所ついたら…あそこだよな！」

かつ「行くか！！」

AM4:45 山手線町の東公園の丘の上

どん「日が昇ってくんのはいつだっけ？」

かつ「6時くらいじゃなかったか？」

AM5:45 東公園の丘の上

山の後ろに光りが指してくる

どん「もうそろそろだな…」

かつ「前回もこんな感じじゃなかったか？」

どん「何でもいいだろ」

すると、後ろから誰かの声がする

テツオ「おーい！どんちゃん！かつちゃん！」

どん& amp ;かつ「テツオ!？」

花「帰ってこないと思ったら…こんな所にいたのね。どうして私達を呼ばなかったの？」

どん「お前らを呼ぶのがめんどくさかったんだよ」

クラッシュ「ほらほら、そんな事言っていないで、見ろよ！日が昇ってきたぞ！」

クラッシュの言つとおり、確かに綺麗な日が昇ってきた

皆「おおおおおー!…」

2012年01月01日 AM6:00 山手線町の東公園の丘の上

皆の目に映ってるのは、絶景で溢れていた…

どん「来年は、皆が笑顔になれる良い年を迎えられますように…」

第三話 新しい年！（後書き）

いえーい！次回からフリーテーマだぜ！

次回予告

どん「ルカリオ！お前まじかよ!？」

ルカリオ「ああ、俺はいい加減飽き飽きしていた頃だ。そろそろ殺させてもらおうぞ」

サーナイト「そうはさせるかよ！ルカリオ！」

ルカリオ「お前は……」

どん「本当何なんだよ」（泣）」

次回！第四話 ルカリオとサーナイト

どん「サーナイトってあんな男っぽい奴だったんだな」

第四話 ルカリオとサーナイト（前書き）

今回は初めて話を二話以上に分けてみました

opening「響け！太鼓の達人」

第四話 ルカリオとサーナイト

1月3日 AM6:00 和田家

花「おーい！早く起きろー！」

テツオ「おはよう花ちゃん」

花「あの糞太鼓共は？」

どん「誰が糞太鼓やねん」

花「やっと起きてきたか…あれ？かつちゃんは？」

どん「部屋にいなかつたけどな」

花「家出か…」

どん「いや、新年早々家出は無いだろ（汗）」

テツオ「花ちゃんに恐れて家出したんじゃない？」

花「それ、私のせい？」

どん「お前のせいだよ」

ドスツ！

どん「いやいやいやいや、絶対そうだって！お前がルカリオが来てから怖くなってきたから、あいつは出ていったんだよ！」

花「…確かにね…厳しすぎたんだね…」

どん「まあ、今はかつちゃんを探すのが先だ！あいつが一人でよく行く場所ついたら…」

テツオ「南公園？」

どん「いや、西公園だ」

花「間違えるな」

テツオ「……………」

そして三人は西公園へ…

が、そこにかつはいなかった…

どん「くそっ！ここにいなかったらどこにいったよ！」
テツオ「誰が糞やねん」

どん「お前にいってねーよ！（汗）」

ザッ ザッ ザッ…

花「しっ！後ろから足音がする…」

どん「なぬ！！」

ドカツ！

花「静かについていてんでしょ！」

？「あ？誰だ？」

三人の後ろに居たのは、エスパルタイプのパケモン、サーナイトだ

どん「誰？」

花「サーナイトってさっき作者が説明したでしょ（怒）」

どん「そこまでキレなくても…」

テツオ「さつきこいつ（和田どん）の色違い（和田かつ）を見かけ
なかったか？」

サーナイト「人間が気安く話しかけてくんじゃねーよ」

テツオ「何だと！」

サーナイト「ふん！」

どん「（何だ？このルカリオみたいな態度は？まさか、こいつルカ
リオなんじゃねーのか！？）」

サーナイト「ルカリオじゃねーよ」

花& amp ; テツオ「は？」

どん「なに！？心を読まれた！？」

テツオ「何言ってるのか分かんないんだけど…ちょっと病院いつて
きたら？」

どん「んだとコノヤロー！」

サーナイト「俺、つーかサーナイト種は人の心を読むことが出来る。さっきこいつ（和田どん）が、俺の態度がルカリオみてーだからルカリオじゃねーのかと、心の中で語ってたから俺はルカリオじゃねーよっていったのさ。ま、人の心を読む所はルカリオと一緒かな」

テツオ「でも人がどこに隠れているのかはしらねーんだろ？」

サーナイト「まあな」

どん「それよりも俺の色違い（和田かつ）の居場所を…」

サーナイト「残念ながらお前の色違い（和田かつ）は知らねーな」

どん「ちえっ」

サーナイト「ルカリオに聞けやいいだろ」

どん「ルカリオはアホだから駄目なんだよ（踏　ルカリオ「誰がアホだ」

テツオ「ルカリオ！お前いつの間に！？」

サーナイト「ルカリオ…」

ルカリオ「アジトからサーナイトの波導を感じたからな」

テツオ「やっぱお前とかくれんぼしてくねーわ」

花「大事な所そこ？（汗）」

和田どん達はこれまでにルカリオに十回かくれんぼをするも二十秒で全滅させられたのである

どん「今度またリベンジだ！ルカリオ！」

ルカリオ「無理だつーの（汗）」

サーナイト「ルカリオ…まだそんな事をしていたのか…」

ルカリオ「あつ？」

サーナイト「お前は昔っからそうなんだよ…」

ルカリオ「何が言いてえーんだ？」

ルカリオとサーナイトは見つめ合いながら語り合ってる

テツオ「気まずいからさっさとかつちゃんをさがそーぜ」
サーナイト「待て」

テツオ「何だよ、こっちは仲間をさがそーとして…」

すると突然三人がサーナイトの能力によって縄に縛られてるかのよう
うに動けなくなった

どん「何これ？」

サーナイト「お前らはルカリオの仲間なのか？」

どん「さっきの件からして全然ちげーだ（殴 ルカリオ「ふざけんな！誰がこんな奴らと仲間になんきやならねーんだ！」

テツオ ビリッ 「うわ！何だ今の！？」

ルカリオの威圧でテツオの体がビリッとしたよーだ

ルカリオ「俺が人間共の仲間になるわけねーだろ！てめえなめてんのか？」

突然ルカリオから強風が吹いてきた。これは相当キレているようだ

どん「ルカリオがキレてます。思いつきりキレてます。キレてます
キレてますキレてます（蹴 ルカリオ「てめえは黙ってる！」

サーナイト「じゃあ本当に仲間じゃねーんだったら今ここでそいつ
ら（どん& amp ; テツオ& amp ; 花）を殺してみろ」

ルカリオ「んなもん簡単だよ」

どん& amp ; テツオ& amp ; 花「な、なにー！ーい！」

サーナイト「殺せなかつたら、お前ごと一緒に俺がこいつら（どん
& amp ; テツオ& amp ; 花）を殺してやるよ」

ルカリオ「じゃあ殺せたらお前を殺してやるよ」

どん「お前らこえーわ（汗）」

第四話 ルカリオとサーナイト（後書き）

自分がおいしい料理を食べてるのを想像するだけでお腹いっぱいにならない？

クラツシユ「どうでもええわ」

かつ「なんか第三話の次回予告のルカリオとサーナイトの話し合いと大分違うような…ま、ええか」

次回予告

ルカリオ「俺は人間共と付き合いたくねーし、逆に殺してーんだよ…」
クラツシユ「ギャグ成分95%だからもうちょっとやさしめに…」

次回！太鼓の達人X 第五話 ポケモンって怖いな…

どん「俺もうポケモンと付き合いたくねー（泣）」

ending「伝説の祭り」

第五話 ポケモンは怖いな〜 (前書き)

正直ポケモンファンはみない方がいいかも…

opening 響け！太鼓の達人

第五話 ポケモンは怖いな…

1月3日 AM10:00 山手線町の西公園

山手線町の西公園に何やら怪しい事をしていた

サーナイト「さあ、さっさと殺せ」

どん「待て待て待て待て待て待て！何で俺らが殺されなきゃならねーんだよ!？」

どんは慌てて言う

サーナイト「ポケモン界の決まりでは人間を殺して、殺せたら本当のポケモンとして認められるが、殺せなかったら腐ったポケモンとして他のポケモンに喰い殺されるのさ。そして今ルカリオのテストにお前らが使われている。当然ルカリオが殺せなかったら俺がルカリオとお前らを殺すという訳だ。」

どん「そういえば、一時期ポケモンと人間がかなり減っている事があつたようだな…」

ルカリオ「そうだ。その時は、自分の愛していた人間を殺せず、俺達に殺されたポケモンや、自分が生き延びたいからといってやむを得ず愛していた人間を殺したポケモンが多かつたのは今お前が思っている時期だな」

テツオ「今ポケモンをやってる読者がみてたら、その人ポケモン引

退しそっだな〜」

どん「ポケモンすげーこえーよ！こえーわお前ら！すげー！何か凄くピンチになつててテンションあがるんだけど！」

ルカリオ& amp ;サーナイト「じゃあ死ぬか？」

どん「嘘です。ごめんなさい」

サーナイト「さて、だいぶ話が反れたな…よし、殺せ！ルカリオ！」

ルカリオ「ああ、じゃあな糞太鼓と糞人間」

どん「うそだーーーーー！！！」

ルカリオがどん達に波導で出来た剣で刺そうとした瞬間、上空から太鼓が降ってきた

ルカリオ「なんだ!？」

降ってきた太鼓には火がついた導火線が、そしてルカリオの目の前に落下し…

どかーーーーーん!

爆発した

ルカリオ「ぐあー！」

どん&mp・テツオ&mp・花「わあ！」

ルカリオが爆発にもろ直撃し、その爆風にどん達が飛ばされる

サーナイト「誰だ!？」

サーナイトが近くの高い山の頂点を向いた。そこにいたのは

かつ「へっへっへっ！残念だったな！ポケモンコンビ！俺はただクラッシュにリングの買い出しに行かされて、帰りに西公園寄ってこようとした所にお前らが居たからたまたま太鼓爆弾を落としてやったのさ！」

サーナイト「くっ!！」

どん達「かつちゃんーーーーん!!!!」(泣)

かつ「とわっ!！」

かつが頂点から飛び降りて、地面に綺麗に着地…

かつ ドゴーン 「ぐわあ!！」

出来なかった…

ルカリオ「くそっ！なめやがって!！」

どん「すまねーかつちゃん！俺らがふざけてたばかりに…」(泣)

かつ「いや、どんちゃんがふざけてて時間稼ぎをしてくれたから間

に合ったのさ」

テツオ「かつちゃん！！（泣）」

サーナイト「だが、今はたまたま不意を突かれたただけだ。次からは通用しねーぞ」

かつ「少なくとも逃げれる可能性は高いぞ」

サーナイト「わかってんだよ、その手に持ってんのがなんなのかな！」

サーナイトの言うとおりかつの手に持っているのは、押すだけで安全地下シェルターにワープ出来るスイッチだ！

かつ「音羽博士があのお店にいて良かったぜ」

音羽博士とは本編の太鼓の達人に出てくる博士である

サーナイト「俺のサイコキネシスでそのスイッチをよこせ！！」

かつ「やだね！」

かつはサーナイトのサイコキネシスを振り払った

サーナイト「やろう！ぶっ殺してやる！ルカリオ！！」

ルカリオ z z

ルカリオは寝ている

サーナイト「何寝てんだてめえ!!」

かつ「さっきの太鼓爆弾におやすみキノコを一緒に入れたからな!」

サーナイト「ポケモンはそんなもんじゃきかねーはずだぞ!?!」

かつ「おやすみキノコはそこらへんの眠り薬とは違うんだよ!」

サーナイト「ちっ!」

どん「かつちゃん今日かつこいいな!」

花「あいつ調子に乗りすぎだ!あのままじゃあサーナイトに殺される!」

サーナイト「くそっ!」

ついにキレたサーナイトはこんな事を言い出した

サーナイト「お前は自分が強いと思うのか?」

かつ「は?」

サーナイト「お前は自分が強いと思ってるのかと言っている!」

かつ「ん〜…多分」

サーナイト「じゃあこいつと戦ってみる。来い！！ラルトス！キルリア！」

サーナイトがそう叫んでから間もなくそのラルトスとキルリアがかつの目の前に現れた

かつ「おお！」

ラルトス& amp ;キルリア「サーナイト様、ご命令を…」

ラルトスとキルリアはサーナイトに向かって、跪いて（ひざまづいて）言った

サーナイト「お前達の目の前にいるあの顔が青い（和田かつ）のを殺せ」

ラルトス& amp ;キルリア「わかりました」

かつ「よっ！俺、和田かつだ！よろしくな！」

ラルトス「気安く話しかけんな…殺すぞ…」

キルリア「ラルトスは調子乗ってる奴を見ると、そいつを殺したがるんだ。戦う相手はお前一人っばいから勝ち抜き戦でラルトスから最初に行かせてもらっぞ」

かつ「オーケー！全然文句無し！」

ラルトス「調子に乗りやがって…殺してやる…」

どん「おい、何か急にシリアスになってないか？」

テツオ「後編そつだな」

かつ「さて行きますかな！（おいおい、何調子に乗ってんだよ俺……ラルトスとか本気じゃん！殺気飛ばしまくりじゃん！もうやだ！あんな事言うんじゃないかった！」

サーナイト「（あいつ頭大丈夫か？）」 かつの心を読みとっていた

ラルトス「行くぞ……」

かつ「おう！（『おう！』じゃねーよバカ！死んだらどうすんだよこれ！）」

果たして、和田かつの運命や如何に！？結末は第六話で！！

どん「また伸ばすの！？（汗）」

YES！

第五話 ポケモンは怖いな〜…（後書き）

う〇こが食べたい

ラルトス「……………」

キルリア「……………」

サーナイト「……………」

ルカリオ「……………」

はい調子に乗りすぎました。ごめんなさい

次回予告

サーナイト& amp・キルリア「おい！ラルトス！おい！！！」

かつ「……………」

次回！ 第六話 和田かつがやつちまった！？

クラッシュ「あゝあ、もう駄目だ。かつちゃんは」

どん」お前さっきから出てねーくせにいい度胸だな！」

e n d i n g 伝説の祭り

第六話 和田かつがやっちまった!?(前書き)

どん「本当にこれで良かったのか？」

ああ、いいさ…後悔はしない

opening 響け!太鼓の達人

第六話 和田かつがやつちまった!?

1月3日 AM10:30 山手線町の西公園

かつ「(まずい…ラルトス種の活躍からして実力も多分半端ないと思う…絶対に殺される!)」

どん「何かあいつの体震えてない？」

キルリア「やはりラルトスの殺気で怯えているのか…馬鹿が、調子に乗りやがって…」

ラルトス「……そっちから来い……」

かつ「え？」

ラルトス「そっちから来いと言っている……」

かつ「(何企んでんだ?お約束の展開では、下手に手を出そうとして一瞬でやられてしまうというパターンだ。ここは大人しく遠慮して……)」

ラルトス「早く来いと言ってるだろ!!」

かつ「は、はい……」

どん「急にかっこ悪くなったなあいつ」

かつ「（一発目はどうする…まずは試しに太鼓爆弾をストレートに投げてみるか…）」

するとかつは、ラルトスに向けて太鼓爆弾を投げ出した

ラルトス「何だ…その攻撃は…」

ラルトスはあっさりと太鼓爆弾を交わした

かつ「（スピードがちょっと遅すぎたかなあ…）」

かつがそう思い込んでると…

ドカーーーーーーン!!!!!!

テツオ「わっ!」

かつ「あっ」

キルリア「ぷっ（笑）」

何とかかつが投げた太鼓爆弾は、ラルトスに交わされてどんに当たったのだ

どん「ちゃんと投げたまえよ、和田かつ君」

かつ「すまん…」

その頃和田家では……

クラッシュユ「おっせくな〜和田かつ」

和田犬「わん！わわん！わんわんわん！」

クラッシュユ「うるさいぞ和田犬」

和田犬「わん！」殴）クラッシュユ「ぶらあへば！」

クラッシュユ「何すんだ！」

和田犬「わん！」

クラッシュユ「はあ……犬と会話出来ないと結構つらいなあ」

和田犬「事態は火急だ！」

クラッシュユ「……………」

和田犬「和田どん達が、ピンチになっている」

クラッシュユ「……………」

和田犬「今こそ行くのだ！！」

クラッシュユ「……………」

かつ「はあ、はあ、まだだ…」

かつは息切れながらも、喋った

キルリア「もう終わったな。ラルトス！そろそろ止めを刺せ！」

ラルトス「はい…」

かつ「いつ！！」

ラルトスは腕に電気を纏った！

花「雷パンチ！？」

ラルトス「死ねえええ！！」

ルカリオ「……ん…はっ！サーナイト！」

サーナイト「やっと起きたか…最初はちょっと油断したが、もう終わりだ」

ルカリオ「くっ！俺とすることが…」

サーナイト「気にすんな。さっきあいつら（どん&mp・テツオ&mp・花）を殺そうとしたときの目から、もうお前をまだ人間に好かれてねーことがわかったからな」

ルカリオ「だから、俺は人間なんかと付き合いたくねーつつたる！」

ドゴーーーーン!!!!!!!!!!

ルカリオ「!?!?」

どん「あああ! かつちゃーーーーん!!!!!!!!!!」

テツオ「本気かよ…もう頼みの綱はいねーのかよ…」

ラルトス「キルリア様…終わりました…」

キルリア「ご苦労様」

?「いいや、まだおわってねーぞ」

ラルトス「なにっ!?!」

サーナイト「？」

どん「だれ!?!」

爆発後の煙が晴れてく

?「和田犬が急に人間語喋り出したから発狂しまくってたら…こんな事になっていたとはな…」

どん「あ…ああ…」

どん「苦しい？わかった！ラルトス！少し耐えろ！」

サーナイト「おい！なにする気だ！」

どん「あれさえあれば、多分何とか出来る！」

どんが自信ありげに言った後、そのままどこかへ走っていった

テツオ「あいつ緊急事態だっつーのに逃げやがった！」

ラルトス「ぎゃあああああああ！！！！！」

花「くそっ！何やってんだあの糞太鼓は！？」

ルカリオ「ラルトス！落ち着け！！！」

サーナイト「なにやっても駄目だ！」

その時…

どん「これで落ち着けー！！！」

かつ「どんちゃん！」

どんがラルトスの口を手を突っ込んだ！

そして…

ラルトスが大人しくなった

サーナイト「とまった!？」

キルリア「ラルトス!無事か!？」

どん「いや!今は話しかけても無駄だ!」

キルリア「なにっ!？」

どん「俺はこいつに《空脳キノコ》を食わせたからな」

サーナイト「空脳キノコ?」

どん「空脳キノコは、食べると一時間の間脳が全て空っぽになる。脳が全て空っぽになるという事は、痛みや苦しみも何も感じないという事になる。苦しみが感じなかったら大人しくしてられんだろ」

かつ「すげえな!そのキノコ!」

ルカリオ「だが一時間経てばまた苦しみ出すんだろ?それじゃあ意味ねーだろ」

どん「その間に音羽博士に行って治してもらおうだよ」

かつ「音羽博士はメカしか治せねーぞ?」

どん「かつちゃんが押したスイッチが音羽博士からもらった物なんなら、その原因をどうにか出来るのも音羽博士しかいねーだろ」

かつ「なるほど！」

テツオ「じゃあ早速行こうぜ！」

クラツシュ「オイラ来た意味あんのか（汗）」

どん「少なくともかつちゃんの危機からは救っただろ」

クラツシュ「うん…（でももうちょっと活躍したかった…）」

そして一同は音羽博士のいる研究所へ…

どん「おーい！博士ー！発狂したラルトスをどうにかしろ！」

音羽博士「ああー！！すまん！皆に迷惑かけてしまったそうじゃな
」！」

どん「気にしないでいいからさっさとどうにかしてくれ」

音羽博士「よし！わしに任しとけー！」

そして三十分後…

音羽博士「終わったぞい！」

ラルトス「キルリア…サーナイト様…」

キルリア「ラルトス〜！（泣）」

キルリアがラルトスに飛びつく

ラルトス「！！？」

サーナイト「…よかった…」（泣）」

ルカリオ「サーナイト…キルリア…ラルトス…」

どん「あーあ！もう昼過ぎちまったぜ〜さっさと家に帰るか」

ルカリオ「目覚めなくていいのか？」

どん「はっ？」

ルカリオ「そろそろあいつらがお前を起こしにくるぞ」

どん「H A I ! ! ? 」

するとどんの目の前が真っ白になり…

どん「はっ!!」

気がつくくと、どんはベッドの上にあった。この見慣れた部屋、そう、ここはどんの部屋だ

どん「まさか…」

かつ「どんちゃん起き…っってもう起きてたのか」

どん「かつちゃん…俺達でラルトスの暴走止めたの…覚えてるか？」

かつ「何言ってるんだお前？ちょっと病院行ってきたら？」

どん「おいおい、これってまさか…」

そうなのだよ和田どん君

どん「夢オチ——————イ!!! (汗)」

もちろん

どん「えええ!!何で!!!?」

正直に言っっちゃるっ……

はっきり言っつてこの話はあまりにも糞だつため…

急遽どんの夢だったという事にしたのだよ

どん「嘘だ————!!!!!!」

補足

- ・この後どんはサーナイト達に初めて会いました
- ・あのポケモン界のルールは現実にはありません
- ・分かる人は分かったと思いますが、第一話のルカリオと今回のルカリオの性格を比べてみると、今回の方がやけにシリアス風に描かれています。現実のルカリオはもっとコミカルな存在です
- ・一応空脳キノコは存在します

この話は、五話目執筆し終わった後、ストーリーを振り返って複雑な気持ちになってしまい、挙句の果てに出た答えがこれという風になりました。いわゆる没です。

尚、やむを得ずこの話と同じような事が起きた場合は全てどんちゃんの夢オチとさせて頂きます

ここまで見てくださった方、ありがとうございます。

では！第七話目でまたお会いしましょう！！！！

ノシ

第六話 和田かつがやつちまった!?(後書き)

次回予告

少年「僕は…死んだ方がいいのかな…」

ルカリオ「いいんじゃないね」

どん「やっぱりこの世界のルカリオはこうでなくちゃ!」

ルカリオ「何言ってるんだお前(汗)」

次回! 第七話 少年よ!はやまるな!!

ルカリオ「波導は我にあり!!」

どん「頭大丈夫?病院行ってきたら?」

e n d i n g

G r e e n G r e e n B o y s

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9282z/>

太鼓の達人X 爆撃!波導の勇者ルカリオ

2012年1月5日01時47分発行